

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200501		
法人名	社会福祉法人 志和大樹会		
事業所名	グループホーム ゆいっこ		
所在地	岩手県紫波郡紫波町土館字関沢24-1		
自己評価作成日	平成 25年 10月 15日	評価結果市町村受理日	平成26年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=0372200501-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=0372200501-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25年 10月 25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念として「共生」を掲げ、入居者と家族、職員・地域住民・法人「共に生きて」いける事を目指しています。また、共同生活を営むにあたり「仲良く助け合って暮らす」事「安心」「安楽」「快適」に暮らす事を目指します。その時その一瞬を大事にし入居者と1日の生活を決め「その時」「その一瞬」を活かしていけるよう、その人らしさを大事に生活の継続を営めるよう支援していけるよう努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から10年を経過した当ホームは、一昨年職員の大幅な入れ替えがあり、この機に新たな考えのもとで運営を図ることとし、事業所独自の理念「共生」を創り、その達成のため年間及び月間の目標を定めている。年間目標「みんなで楽しく助け合って暮らしましょう」をモットーとして、また理念の具体化に向けた職員の意識付けとして月毎に月間目標 4月は「自分のことを知ってもらおう」といった項目を掲げ、これを念頭に取り組んでいる。支援の在り方も入居者本位に一層特化したことが事業所の特徴となっている。利用者と職員とのコミュニケーションもよく利用者の表情も明るく感じられる。地域との関係も小・中学校の入学・卒業式に管理者が招待されたり、ホームの情報紙「ゆいっこ通信」を利用者と一緒近隣の民家や公民館、駐在所などに配布、発信したりしながら地域の理解や協力が得られているなど、地域で安心して暮らせる支援をしている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての今年度の理念は「共生」を掲げた。現場職員と常に情報の共有をはかり入居者の現状を見極め、今出来る「何か」を考え支援にまい進している	今年度、事業所独自の理念「共生」を創ったほか、その実現に向けた取り組みを行うため年間目標を掲げ、更に月ごとに4月は「自分のことを知ってもらう」、5月は「相手のことを知っていますか」といった12ヶ月間の月間目標を併せて作りその目標に沿って掘り下げた取り組みをすすめている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隔月広報に近況を載せている。また、広報配布に入居者と共に配布したり、地域のお祭り・学校行事に出来る限り参加をしている	隔月発行の「ゆいっこ通信」をご近所や公民館、駐在所、協力医療機関等に対し利用者と一緒配布して回りながら理解と交流を深めている。また秋祭りや小中学校の運動会、学芸会にも参加し、管理者は入学式、卒業式に参加するなど積極的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の経験不足・実践不足のため、貢献には現在至れていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は調整をしながら隔月に行われるようにはしている。家族会の会議内容を取り上げ「家族本位」「利用者本位」の運営に取り組めるよう行っている	会議では、家族会との合同会議の開催検討や、通院対応やエアコンの設置等が話題になり、夏にはエアコンが各室に設置され会議の意見等が反映されている。なお、当ホームの取組の特色は、委員が他法人ホームの視察研修に出掛け研鑽を重ねていることである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の身寄りが遠い方に対し「成年後見人」を申し立てる事となり市町村と共同で行った。また、月1回介護相談員の訪問を行って入居者の現在の共有に努めている	運営推進会議に役場職員が来訪した時に情報交換したり、認定更新や広報紙の届出等のため役場を訪問したときに種々相談等をしている。なお、町が委嘱した介護相談員の訪問があり、利用者の苦情や不満を聴いて頂き改善に向けた取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・窓の日中の施錠の開放は継続して行っている。	法人が設置する「身体拘束廃止委員会」のメンバーとして参画し学習しており全職員が身体拘束による弊害について理解している。また、よく言われるスピーチロックについても注意し、言葉がけにも配慮しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の現状に常に共有を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村と連携し行っている。また現場職員とも制度等の説明を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時も説明を行い、入居後も随時説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回家族会を開催し、その際会議内容を運営推進会議に上げ、反映をしている	毎月の利用料の支払のときや、家族会議のとき、ケアプラン内容の確認時を利用し意見や要望を聞くようにしている。家族から利用者の笑顔の写真が欲しいとか、温泉に連れて行きたいなどといった意見や要望に応えながら対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時話し合いを設け、反映をしている、努力はしている	ミーティングや業務会議等を通じて職員が気軽に話し合える雰囲気作りに心がけており、食堂の椅子の配置や、職員の待遇、勤務体制、テレビの配置など、様々な意見や提案を出し合い職員会議で検討し運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の意見を反映できるよう吸い上げを管理者は行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修等の参加をしている。職員お互いが研修で気づいた事・ためになった事等話し合えるようまた、討議も随時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括会議の参加・各研修等の参加・視察研修等の参加をして部署に持ち帰り共有を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の継続を図れるよう、事前に家族様から聞き取りをし、要望・希望を出来る限り吸い上げ関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の継続を図れるよう、事前に家族様から聞き取りをし、要望・希望を出来る限り吸い上げ関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の現状を現場職員と話し合い共有し、家族様に対し提案・協議をし対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつ屋根の下で生活をしている入居者・職員とは「共生」「共鳴」としていると考えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対し協力体制を仰ぎ出来る限り支援をさせていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居という生活圏内で家族と共同し行っている	散歩や買い物で馴染みになったり、近所の理髪店や知人の来訪があったり、また家族の協力を得てお盆の墓参りや正月に自宅で過ごし親戚や近所の人との交流を深めたり、時には紫波稲荷など思い出の場所にドライブをするなど、色々な方法で人や場所とのつながりを継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い波長を感じ、お互いの気の向くまま係わり合いをされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の看護の生活の場に対し相談された事例もあり		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子や入居者との談話にて吸い上げを行い、本人の希望・思いの把握に努めている	日々の関わりの中で楽しく過ごすために、やりたいことは何かと聞くと、利用者が「今日は天気が良い」という一言でドライブにすぐ出かけるなど、利用者の思いや気持ち聞くように努め、実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族面会時に確認したり、第三者(ここでは介護相談員等)の介入・談話等で把握に努め話し合いをその都度も受けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の申し送り・記録、言動に気を配り把握と共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部署会議・日々の申し送りで随時話し合い・把握に努めている	本人の意向や希望が反映された計画とするため、モニタリングや日々の記録を職員間で検討を重ね、また家族の要望を取り入れながら介護計画をつくっている。なお、必要によっては医療など関係者と話し合い「体調管理の通院」など計画に組み入れ、現状に即した計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化の中で「気づき」を大切にし共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位・家族本位で無ければならない。そのためには常に話し合い・共有をはかり、同法人と協力しながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民・家族・他事業所・法人等一人の生活を支える事を重点は置いて行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週嘱託医の往診があり、その都度報告・相談・連絡を行っている	入居時に家族と相談し同意を得て、法人の嘱託医にかかりつけ医を変更しているが、事情がある場合は従前のかかりつけ医としている。週1回嘱託医の往診があり、健康管理の相談を行い、急変時も看護師を通して医師と連絡を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時変化がある際には報告・連絡・相談を行い連携に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態を常に家族様に報告、家族の思いを汲み取りながら、状態の変化に寄り添っている。その際情報の共有、相談・連絡も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その段階にあわせ急ではなく家族様にご報告連絡をしている	終末期のケアに対応していない。現時点ではたんの吸引など医療が必要になれば、隣接の特別養護老人ホームへの紹介を含め家族と相談しながら、できる範囲の対応を説明し理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隔月に会議を設け、共有を図る		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災協力隊・年2回の防災訓練を行い、対応できるようマニュアルもある	法人と合同で「たもの木防災協力隊」の協力を得て防災訓練を実施している。20数名の防災協力隊の参加の下で、安全に避難誘導できるよう訓練をしている。また9月には夜間想定した訓練を利用者とともに実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の個々の状況に合わせた対応の中で他入居者の目も考えながら行っている	排泄時の失敗を本人に意識させない対応や、支援が必要なときも本人の気持ちを大切にしたいケアを心がけるなど、利用者の誇りを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	談話の中での聞き取りや自己決定の為の後押しを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を大切に、利用者の動きにあわせ1日の過ごし方を決めている。また、個々に合わせたケアの共有、タイミングを見ながらの援助を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には毛染めを行い本人の満足を重視している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会にはご本人の好きなメニューを取り入れたり、談話の中で希望があれば取り入れている。配膳・下膳・片付け・盛り付け等出来る方々は職員と一緒にしている	畑で収穫したパッションフルーツ、ゴーヤなど食材に活用したり、利用者による盛り付けや味付け、食事の後片付けを行っている。また敬老会には家族と食事をともにしているほか、十五夜には月見団子を作るなど大事な活動の一つとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に見合った適切な量を職員が把握し利用者に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日1回は口腔ケアを実施している。食後は緑茶を飲んでいただく等口腔内の消臭・除菌に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせたタイミング・声掛けを行い自立支援を支えている。声掛けにはプライバシーを重視している。	排泄チェック表を活用するほか、表情や動作を観察し定期的な声掛け、こまめな誘導で、習慣となっていた自宅でのオムツ使用からトイレ排泄ができるようになるなど、成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便促進効果のある食材の取り入れ、起床時には水分の提供を行っている。また、生活動線上の動きではあるが身体を動かすようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調・気分を踏まえ、タイミングを見ながら支援をしている。また、ニーズに合わせた複数人数の入浴も行っている	最低週2回は入浴している。入浴時間は夕食後21時頃までとしている。本人の希望を尊重し、就寝前入浴の方もいる。衣服の着脱以外は、見守りである。また職員との入浴を希望する人、2~3人で入浴される人もある。浴槽では歌など歌い気分良く入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の安楽な体位を知り、1日を通して充実できるような生活を、「今日」を終えた事を理解できるよう眠れるような支援を個々にあわせて行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の資料を集め勉強し、状態変化・現状・特変をわかる、対応できる、誤薬の危険等服薬変更の際には説明、共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の嗜好品に対し本人・家族に聞き取りし、反映をさせているまた、日々の生活の中で自分の役割を見出している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換でドライブは定期的に行われている。ご本人の希望・気持ちを尊重し出来る限り「行きたい」所に行っている。家族との調整がつく方は調整し行っている。	好天の時は周辺の散歩、敷地内の花壇づくりや草取りなどのほか、ドライブを兼ねて春の山菜や秋の栗拾い、産直や道の駅に買い物、桜山神社の花見、ダムの紅葉など、季節に応じて出掛けており、家族との協力を得て墓参り、正月の外泊、外食や温泉などコミュニケーションや気分転換が図れるよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々人により支払い方は違う為共有しながら、また、理解度・状態を見ながら行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方から連絡いただくこともある。その都度説明しお電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不必要な物は置かない、わかりやすい環境を整えている、また、季節を感じていただけるよう時期に見合った飾りつけを行ったり、「今日」がわかるようカレンダー・時計の設置、声掛け・活動をしている	建物内は清潔で、廊下は広く、天井の小窓から光が差し込み適度な明るさで落ち着いた雰囲気がある。床暖房が施され食堂兼ホールは厨房と隣り合わせで、調理の匂いや音の様子が分かる。フロアには行事の写真やハロウィン、切り絵の作品等あり心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の状態に合わせた生活空間環境を整え随時対応、協議、変更等行っていただく、対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々人入居の環境が違う(ご本人目線)事もあり、ご家族と協議した上で設備を配置している	洗面台やエアコンが備え付けられ、使い慣れたベッドや衣装ケース、椅子、時計、お茶セット、位牌などが持ち込まれ、また家族の写真、敬老会の感謝状などが貼られ本人が居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者は「ご自身の生活スタイル」の確定までこちらの支援を必要としているが、慣れ・自我が出てくると、見守りに切り替えて、ご本人の「今日」にそって支援をしている		